

快適な北方都市の創造 〈世界冬の都市市長会〉

〈世界冬の都市市長会〉の活動をご存知でしょうか。

「冬は資源であり、財産である」というスローガンを掲げ、課題解決や冬の都市ならではの知恵を分かち合ってきました。

ひと冬に6mの降雪があるのに多くの人口を抱え、

社会インフラが整備された札幌は、

冬を資源に変えることで発展し続けている好例です。



今井啓二さん

いまい けいじ

札幌市総務局国際部長

1955年生まれ。北海道上川郡新得町出身。小樽商科大学卒業、札幌市役所。財団法人地域創造（企画課長）派遣、財団法人札幌市芸術文化財団（総務課長）派遣、企画課長、教職員人事担当課長、連絡調整担当部長などを経て、2011年より現職。



2013年（平成25）、札幌市で開かれた実務者会議 写真提供/札幌市

〈世界冬の都市市長会〉とは

〈世界冬の都市市長会〉（以下、市長会と表記）は、1981年（昭和56）に〈北方都市会議〉の開催が提唱されたことよって誕生しました。北方圏に位置する都市は、積雪寒冷の厳しい気象条件を克服しながらまちづくりを行なわなければいけないという、共通した課題を抱えています。

「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、気候・風土の似ている世界の北方都市が集まり、共通する課題について話し合い、快適な北方都市を創造しようではないか、という札幌市の呼びかけに6カ国9都市が賛同し

ました。翌年、第1回会議が札幌で開催され、雪でつながる独自のネットワークがアジア、北米、ヨーロッパの北方都市の間に形成されたのです。

また、第3回会議（1988年（昭和63）カナダ・エドモントンで開催）からは、企業や団体が冬関連の商品や技術を出展する〈冬の見本市〉や専門家や学術研究者が発表する〈冬の都市フォーラム〉が併催されるようになり、情報に加えて、モノと技術が行き交うコンベンションに発展しました。

第6回の会議（1994年（平成6）アメリカ・アンカレッジ開催）ではネットワークのさらなる強化を目指し、会員制の組織として〈北方都市市長会〉が設立され、会議の名称も〈北方都市市長会〉に変更されました。1997年（平成9）にはそれまでの活動が評価され、国連経済社会理事会上にNGOとして登録されています。

冬は南半球にもあります。第7回会議が終ったところでしたか、南半球の複数の都市からも関心が寄せられてきました。こうしたことから、北方だけでなく南方も含めた名称変更の検討を始めました。第11回会議（2004年（平成16）アメリカ・アンカレッジ開催）において、会の名称を〈世界冬の都市市長会〉に変更し、今に至っています。来

年（2014年（平成26））1月、市長会議は16回目を迎えます。

これまで環境問題、都市交通、除排雪、都市計画、観光促進、冬のライフスタイルなどさまざまな分野について、それぞれの都市の知恵と経験を分かち合うための意見交換が行なわれ、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

きっかけは、木製の遊具

〈北方都市会議〉は、板垣武四市長（当時）によって提唱されました。そのきっかけの一つになったのは、フィンランドの首都ヘルシンキの助役が札幌に講演で来られた際、木製の遊具をプレゼントしていたことにある、といえます。

木製の遊具というのは、当時、大変珍しいものでした。木製だと温かみもあるし、ほかの素材にはない良さがあるって、デザインも優れたものだったようです。それで、そのような北国のノウハウ、生活の知恵をいろいろな場面で交換する場があればと思われたのでしよう。このように、最初の人のつながりは北欧です。

何回目かの会議のときにイギリスのシンクタンクが調べたレポートによると、北方圏地域には10億人くらい住んでいるということで、

当時の世界の人口からみても思いのほか多いのです。長い歴史を持つ都市もあり、気候・風土が似ていることから、生活の知恵や工夫、各都市が抱える課題、解決策について、市長が集まって話し合っていることが着想されたのが会議の出発点です。

国際感覚のルーツ

北海道には、今から140年余り前に、開拓使が置かれた歴史があります。そのときに、海外からホーレス・ケブロン（1804～1885年）アメリカ人 道路建設、鉱業、工業、農業、水産業など、開拓のほぼ全領域で活躍）、エドウィン・ダン（1848～1931年）アメリカ人 近代農法及び獣医学）をはじめ、多くの外国人技師を集中して招き、積極的に農業、工業などの技術を導入し、開拓が進められました。大通公園、碁盤の目の街並みなど身近なところで当時の先駆的な構想に触れることができます。

また、札幌の国際化が進んだ背景としては、1972年（昭和47）の冬季オリンピックの開催が大きいです。インフラ整備などは10年から15年早まったと言われていますが、それ以上に世界中の注目が集まり、海外から大勢の方が訪れました。当時「YOKOSO（よ



上：エストニア・マールドゥで、2011年（平成23）開催された第14回冬の都市市長会議
 右上：モンゴル・ウランバートルで、2012年（平成24）開催された第15回冬の都市市長会議
 右下：アメリカ・アンカレッジで行なわれた〈冬の見本市〉 写真提供/札幌市

うこそ」を合言葉に、市民が外国からのお客さんをおもてなしするという感覚も生まれたと思います。あるビール会社の「ミュンヘン、札幌、ミルウォーキー」というコマーションを聞いた記憶がありませんか？ このコマーションでも札幌は名前を知られるようになりましたし、ビールでも札幌は世界とつながっているんだということを知った気がします。3都市とも北緯45度付近にあって優秀なホップを栽培できる気候にあり、世界三大ビール名産地といわれていますが、実は札幌は、日本人によるビールづくり発祥の地でもあります。歴史的にも深いかかわりがあるビールを活用した文化の創出を目指して「ビールのまち さっぽろ」の取り組みを進めています。

1年を通じてポジティブに暮らす、自然と共生しながら生きるという知恵が、北方圏にはある気がします。そういう暮らし方が、戦後間もない1950年（昭和25）に、さっぽろ雪まつり（以下、雪まつりと表記）を生んだのではないのでしょうか。雪まつりは、「冬を楽しむ」というところが出発点となっていますが、市長会議の考え方も通じるところがあります。札幌のまちが世界の人々に知られ、雪まつりが国際的になり世界各地から大勢の観光客が訪れるようになった

のは、先ほどの冬季オリンピック大会開催の影響が大きいと聞いています（26ページ参照）。これまで市長会でも幹事会や実務者会議などを札幌で何回かやっていますが、ちょうど雪まつりの時期に開催した会議の参加者は皆、大雪像を目の前にして「アメージング」と、とても感激してくださったことを覚えていています。

その市長会議ですが、2016年（平成28）第17回会議は、札幌で開催することが決定しています。札幌での本会議は実は1回目以降初めてなのです。世界から多くの都市に来ていただき、札幌のいろいろな魅力に直接触れたり、市民との交流を深めたりする機会にしたいと考えています。

北の都市ネットワーク

カナダの都市はエドモントンをはじめ冬の取り組みに積極的で関心が高い都市が多く、そうした点でつながりのある都市が集まってスタートしたという印象を受けています。今はインターネットでいろいろな都市の情報が容易に得られますが、インターネットが普及する前からお互いの情報を共有しようとして、第4回ノルウェー・トロムソ会議では、時代を先取りするような情報交換の提案もエドモン



世界冬の都市市長会の会員都市の風景。

右：ノルウェー・トロムソの市街地。薪ストーブのための煙突が印象的な家並み。写真提供／トロムソ市

上段：アメリカ・アンカレッジで。自動車道をムースが歩く、自然豊かな立地。写真提供／アンカレッジ市

下段：ロシア・ユジノ・サハリンスク。色鮮やかな外壁が、長い冬のまちに彩りを添える。写真提供／ユジノ・サハリンスク市

イベントです。その温かい雰囲気
をまちづくりに生かそうと札幌で
ミュンヘン・クリスマス市を行な
うようになって、今年で12回目
になります。大勢の市民や観光客が
楽しみにしている冬のイベントに
なっています。このように姉
妹友好都市との相互の交流を通し

今では低床バスを当たり前に見
かけますが、既に当時からウイニ
ペグでは低床バスが走っていまし
た。また、スカイウォークといっ
てダウンタウンのビル2階を屋
内通路でつなぐまちづくりをして
いました。そうすると冬の寒さや

を参加都市が決議しました。
私が担当した第7回会議はカナ
ダ・ウイニペグで開催されました。
当時ここにはDPI (Disability
People's International:障がい者インタナ
ショナル)の世界本部が置かれおり、
そうしたこともあってDPI議長
による「冬の都市における交通と
アクセシビリティ」に関する基調
報告などがありました。ウイニペ
グ会議では、アクセシビリティを
考慮したまちづくりに努めること

誰もが暮らしやすいまちに

恵のストックです。そのようなネ
ットワークを大切にしていきたい
と思っています。

トンからありました。
市長会議を通して、ナトリウム
灯の導入、スノーホッケーや歩く
スキーの普及なども取り入れてき
ましたが、これまで市長会議を通
してかわった都市は世界150
都市を超え、30年も続けていると
ネットワークそれ自体が大変な財
産です。

でも互いのまちづくりの施策を学
び合い、互いのまちについて理解
を深めていきたいと考えています。
いざ何かあったときに、「じゃ
あ、あの都市あの人に聞けばこう
いうネットワークがあるかもしれ
ない」とか「確かこの都市ならそ
ういう施策・情報を持っていたは
ず」と頭に思い浮かぶ、まさに知



上：2013年（平成25）10月現在の会員都市。北方圏からアジア地域に遷っていることがわかる。

右：次回2014年（平成26）1月に世界冬の都市市長会議が開催される韓国・華川。韓国で最も早く分厚い氷が張る華川郡では、ヤマメを素手で捕まえる冬の体験祭りが行なわれている。写真提供／華川郡

左：札幌市役所ロビーにできた、〈元気カフェ〉。光が差し込むロビーに、居心地の良い空間をつくっている。ほかの自治体も、是非真似してほしいカフェである。



札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

オープンマイルドな国際性を持つ北の都市

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。

札幌は、都市がつくられた経緯も関係ありますが、オープンマイルドで非常に親しみやすいといわれています。自分たちもよそから来た人間だから、外から来る人に温かく親切なのかもしれません。